

<p>団体名</p>	<p>NPO法人みんなの街</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>里山保全のための整備作業及び環境教育活動</p>						
<p>活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題</p>		<p>■活動風景</p>							
<p>■人口減により里山の保全が難しくなっている 若者の都市への人口流出などにより里山で活動する人口減（特に若者）が続いている。人の気配が減ったことで獣が山から降りてきやすくなり、獣害なども増えている。倒木処理なども追いついていない。活動地域である小笠原地区はすでに限界集落で、壊れた石組みを修復したり、倒木を処理できる人が今では集落に一人しかいない。炭焼きや和紙づくりなど、昔の伝統技術を継承する人が絶え、里山文化が急速に失われつつある。</p> <p>■高い耕作放棄地率 放棄された田畑が増え、活動地域である山梨では耕作放棄地率が全国で二番目に大きくなっている。</p> <p>■外来種による生態系被害 活動地域においては長年放置されている間に外来種が増え、生態系も侵され始めている。具体的にはセイタカアワダチソウやアメリカセンダングサによる侵食が目立つ。</p>		<p>竹林整備</p> <p>集落の竹が伸び放題となっており、建物が日陰になり、湿気によりダメージを受けるケースが有り困っている人は多い。特に斜面は高齢者には難しいのでスタッフとともに整備。</p>							
<p>■活動報告 <400字程度></p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>							
<p>1) 里山整備活動 ・棚田の石組み修復、竹伐採、倒木処理、生態系被害防止外来種（アメリカセンダングサ）の除草、田畑耕作などを行った。実施面積：2.2ha、外来種面積：0.3ha → 0.1ha、活動日数：50日間。スタッフ2人、ボランティア述べ60人。</p> <p>2) 環境教育活動 ・近隣住民や田舎暮らしに興味がある都会人などに里山の魅力や保全方法を伝え、里山暮らしに興味を持ってもらった。実施回数：15回、参加人数：285人 ・参加者に向けて里山環境に対する意識調査を行い、活動参加前後での改善効果を測った。 ・SNSなどでの呼びかけ以外に、小学校や図書館などにチラシを配布し、SNSに広告を載せることで参加者の増加を図った。配布枚数：6500枚</p>	<p>1) 里山整備活動 実施日数、面積ともに目標を上回る活動ができた。外来種の面積は現時点ではかなり減少しているが、残りの個体が多数の種を作り、こぼしているため、活動を継続しないとすぐに元に戻ってしまいそうな危惧はある。落とす種の量が限定的になるまでは活動を続ける必要があると考えている。</p> <p>活動実施日数：目標15回、実施15回（達成度100%） 整備実施面積：目標1.5ha、実施2.2ha（達成度約150%） 外来種の面積：目標0.05ha減少、実施0.2ha減少（達成度約400%）</p> <p>2) 環境教育活動 予定通りに環境教育活動を進めることができた。参加者には好評で、里山環境の魅力を実感してもらえたり、保全に対する意識の高まりが見られた。</p> <p>活動実施日数：目標50日間、実施50日間（達成度100%） 参加人数：目標300名、実施285名（達成度95%） 環境意識調査：平均3以上が目標65%以上、実際71%（達成度109%）</p>			<p>野草採りイベント</p> <p>野草を採ってその場で調理して食べながら、自然の恵みや里山の魅力を伝え、環境維持の活動の意義も伝えた。</p>					
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>							
<p>楽しんで活動していると、一緒に活動したいと思ってくれる人が増え、それにより活動が進みやすい。活動の様子をSNSで流したり、参加者が口コミで活動を人に広めてくれることで、興味を持つ人が連鎖的に生まれる。 保全しなくては、歯を食いしばって活動するよりも、作業自体を楽しむこと、その意義を伝えることに重点を置くことで、円滑に環境保全は進めることができることを実感できた。</p>		<p>●人口減が続く限り、里山環境を保全することは難しい。このため、引き続き里山環境の良さを伝え、里山ぐらしに興味を持つ人を増やす必要がある。 実際に体験してもらおうと、里山での暮らしに興味を持ち、具体的に動き出そうとする人が確実に増えることは活動を通じて強く感じており、人口減を食い止めるどころか、増やしていくことも十分に可能だと考えている。</p> <p>●課題は、参加費を安く抑えながら、経営を回していくというバランスを保つことが難しいことである。 興味を強く持ち、実際に移住に踏み切る人も数人出てきているが、まだまだ数は少ない。その理由として、里山での滞在期間が不十分であるということが挙げられる。 実際の移住に踏み切った方々は、どなたも複数回活動に参加し、ある程度の期間、滞在していた。これらの方々が長期間滞在できたのは、当団体の滞在費が安かったことが大きな要因となっているが、これは同時に、当団体の収入が不十分であることにもつながっており、そこに難しさを感じている。</p>			<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <table border="1" data-bbox="1890 1627 2709 1801"> <tr> <td data-bbox="1890 1627 2062 1801"> <p>この1年間の活動を通じて</p> </td> <td data-bbox="2062 1627 2531 1801"> <p>実際に二組が里山に移住</p> </td> <td data-bbox="2531 1627 2709 1801"> <p>を達成しました。</p> </td> </tr> </table> <p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>地域住民：草刈りの人手が増えて凄く感謝された。これにより、保守的だった地域の人々も他地域からの移住を歓迎しやすい雰囲気醸成されてきている。</p> <p>環境教育参加者：移住に繋がるほど体験を喜び、環境を気に入ってくれた。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>実際に二組が里山に移住</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>実際に二組が里山に移住</p>	<p>を達成しました。</p>							